

「オープンソース」とは何か

GNU Project 八田 真行 <mhatta@gnu.org>

<http://www.debian.or.jp/~mhatta/osway20021220.mgp>

そもそも「ソフトウェア」とは何か

ハックの対象じゃないの？

法的には著作権法によって保護される「プログラムの著作物」

- 著作権者に排他的な所有権
- 著作権者との契約によって利用が許可される
- 使用許諾(ライセンス)

企業にとっては「知的財産」

- ソフトウェアの情報財的側面
 - 初期費用が極めて大きい
 - 限界費用が極めて小さい
- ライセンス料収入
 - 違法コピー問題

「オープンソース」前史

「Give away」ソフトウェアの伝統

- 具体的に何をしてよいのかは不明確

二つの極(～1997年)

- GNU GPL

- Richard M. Stallman 率いる FSF の活動
- コピーレフトを主張

- BSD ライセンス

- Berkley System Distribution
- X Window System
- 非(反)コピーレフトを主張

「オープンソース」の成立

Debian プロジェクトにおける議論(1997年)

- 「グレーな」ライセンスの扱いに苦慮

Debian Free Software Guideline(DFSG)の成立

- Bruce Perens ら
- Debian プロジェクトが「フリー」であると見なすソフトウェアの満たすべき要件を列挙
-

OSI(Open Source Initiative)の設立

- Eric S. Raymond ら
- Debian 色を脱色
- 「The Open Source Definition」の成立

「オープンソース」にまつわる誤解(1)

ソースコードが公開されていれば「オープンソース」か

「シェアドソース」でも良いのか

自由にいじれ、いじった結果を公開できることが重要

- ハッカーのインセンティブ

ソースコードを公開したからといって

- ソフトウェアの品質が向上するとは限らない

- ハックしやすい環境作りが重要

「オープンソース」にまつわる誤解(2)

「オープンソースの定義」は押しつけか

- 「日本独自の」オープンソース?
- 平和利用のみに制限、改変版発表には事前に著作権者の承諾必要
etc.

「今度入ったBSDは全く役立たずだよ、どうしようもないね」という表現の正当性

- 話しの対象が一致していなければ実りある議論にはならない

オープンソースのロジック

- ネットワークの外部性
- 「信用」ではなく「信頼」

オープンソースのライセンス

OSD準拠のライセンス群

- ライセンス間の矛盾
- 新技術への対応
- 日本法との整合性

現行著作権法自体の限界

- ローレンス・レッシング
 - CODE
 - コモンズ

オープンソース概念に通じた他分野の専門家が払底

- 学際的研究の必要性

企業経営とオープンソース(1)

今までに蓄積した知的財産をいかに活用するか

自社製品のオープンソース化

- Netscape
- RealNetworks

オープンソース企業

- RedHat
- Ximian

サポートとカスタマイズに立脚したビジネスモデルの是非

企業経営とオープンソース(2)

伝統的なソフト軽視

「ハッカー」はプログラマーだけではない

- 創造性の高い人材
- 独創性を活かすには

ハッカーのやる気をいかに引き出すか

ハッカーの扱い方

- 労務管理
- 勤務体系
- 報酬体系

国家とオープンソース(1)

世界各国の政府がオープンソースソフトウェア導入を検討

- 南米 - 嫌米、コスト削減
- ヨーロッパ - 言語、コスト削減、透明性
- 中国 - 国家安全保障
- 小国 - マイクロソフトがサポートしないので

日本: 「電子政府の基本ソフト、脱ウィンドウズへ 公開型に転換」
(朝日新聞11月16日付)

e-Japan 計画

- 「外国製ソフトウェアに依存するのは良くない、日本産のソフトウェア振興を」という主張の是非
- 国境を越えるオープンソースソフトウェア

国家とオープンソース(2)

オープンソースはクローズドソースより安全か
□セキュリティが向上する?

オープンソースはクローズドソースより安価か
□TCOは削減される?

オープンソースは打ち手の小槌ではない